

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間	120 分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	総人(文) 200 点、文 100 点 教育(文)・法・経済(一般) 150 点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

2008年度のような特別な難問はないが、やさしめの問題がほとんどなく全体的にやや難しくなった。出題分野や形式などはほぼ例年通りである。

〈特記事項・トピックス〉

第1問が独立小問2つになり、2007年度の形式に戻った。

〈合格への学習対策〉

出題予定の分野から万遍なく出題されているので、まず全分野について標準的な実力をつけることが第一である。その上で確率、微積、整数など頻出分野についてはとくに演習量を多くして確実性を高めておくこと。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1 問1	記述	B	空間座標	垂直条件を(内積) = 0で計算するだけの問題。	易
問2	記述	A	確率	球が各回ごとに1つずつ増えるので確率の分母、分子に注意が必要。	標準
2	記述	II	定積分で表された関数	定積分で表された関数についての一般的な考え方がわかっているならば、単なる計算問題であるが、それがわからないと難しい。	標準
3	記述	II	対数不等式	対数を含む不等式で表される点の存在範囲を図示する典型的ともいえる問題。	標準
4	記述	II	三角形の面積、三角比	3倍角の公式を用いることと、場合分けに気がつくこと。	やや難
5	記述	A	約数・倍数の個数	$p=2, n=6$ ぐらいで具体的にやってみると方針がつかめるかも。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。